

「初冬の高尾山紀行(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

特急「マウント高尾号」は、明大前駅からはノンストップで、50 分もかからずに終点の高尾山口駅に到着した。さすがに都内よりも少し寒い。



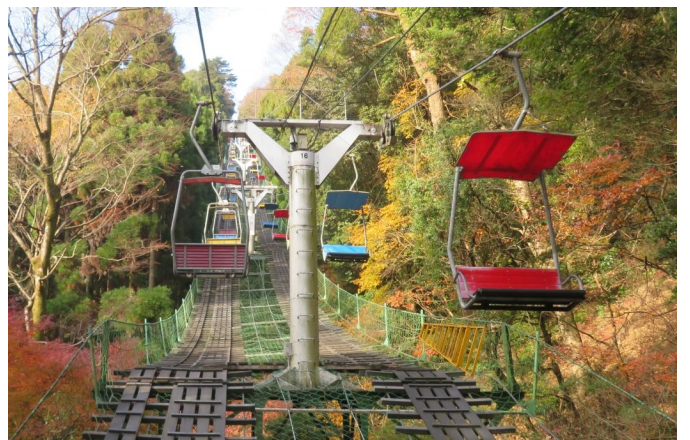
高尾山口駅は京王高尾線の終着駅で、観光地の玄関駅らしく、広く、自然に調和したデザインになっている。この日は天気も良かったので、観光客も多く、一年前にはほぼ見かけなかった、外国人の姿も見えた。



すでに 12 月に入っていたし、都内よりも紅葉の時期が早いので、今回は紅葉見物は期待していなかった。しかし、高尾山口駅からケーブルカー駅(清滝駅)への道は、意外にも紅葉が美しく、観光客はスマホやカメラを構えながら歩いていた。このあたりには「登山用の杖」を売る店が多く、買おうかどうか迷ったが、自分の脚を信じて買うのをやめた。



ケーブルカーの駅も混んでいた。この時期のケーブルカーは時刻表と関係なく、ほぼ 10 分置きに出発するのだが、それでもかなり長い列になっていた。



露木先生はお孫さんを 2 人連れていた。リフトを楽しみにしていたというので、こちらに乗ることにした。乗車券は、ケーブルにもリフトにも乗れるのだ。



今回、私は「変形菌の菌核(休眠体)の採取」、露木先生は「キジヨランの綿毛の収集」と、目的がはっきり分かれていた。露木先生は、子ども向けの「出前授業」で綿毛を使うのだという。目の良いお孫さんたちが、次々と綿毛を発見し、たちまち瓶が一杯になる。